

クラスワイド(学級単位)のポジティブ行動支援 実践研究報告

小学校中学年の学級全員に、友だちの
いいところを見つけることを教える。

学級の実態

- 支援学級在籍児童1名，支援員配置教科あり。
- 担任が学習や活動の際に，必ず先に活動の流れの見通し伝えている。
- スモールステップで褒める学級運営。
- 児童同士で声をかけ合ったり，協力したりすることは現段階では少ない。

教員の考え

「高学年として「自分でできることは自分でする」ということを大切にしたい。少しずつ児童も意識でき始めている段階」

「褒める機会を多くもち、一人ひとりが自信をもって学校生活を送ることができるようにしていきたい。」



アドバイザーからの助言

- 継続してステップを細かくふんで、ていねいに褒めていきましょう。
- 担任の先生と児童がお互いに成長しあっているよいクラスです。できているポイントに対してしっかりフィードバックをしましょう。
- 違うことは違うと明確に伝えることが大切です。



指導目標の見直し

友だち，教員に対していいところ見つけをすることができる。

記録方法と記録

- ・いいところを見つけたら，紙に書くこととした。
- ・指導前の記録(ベースライン)を9月28日～10月4日(5日間)にとった。
- ・帰りの会で3分間，時間を設定して記入する
- ・書ける児童は何枚書いてもよい。

～さんへ
○○○○○(3～4行程度)
～より

指導1:学級のいいところを見つける

- 10/5から指導 ベースライン9/28~10/4の分
を児童に提示した。



全員分, 担任がフィードバック

- 帰りの会の後に書く時間を3分に設定して自由記述した。
- 「相手の人数」/「書いた枚数」で合計の累計していく
- 棒グラフで視覚化した。

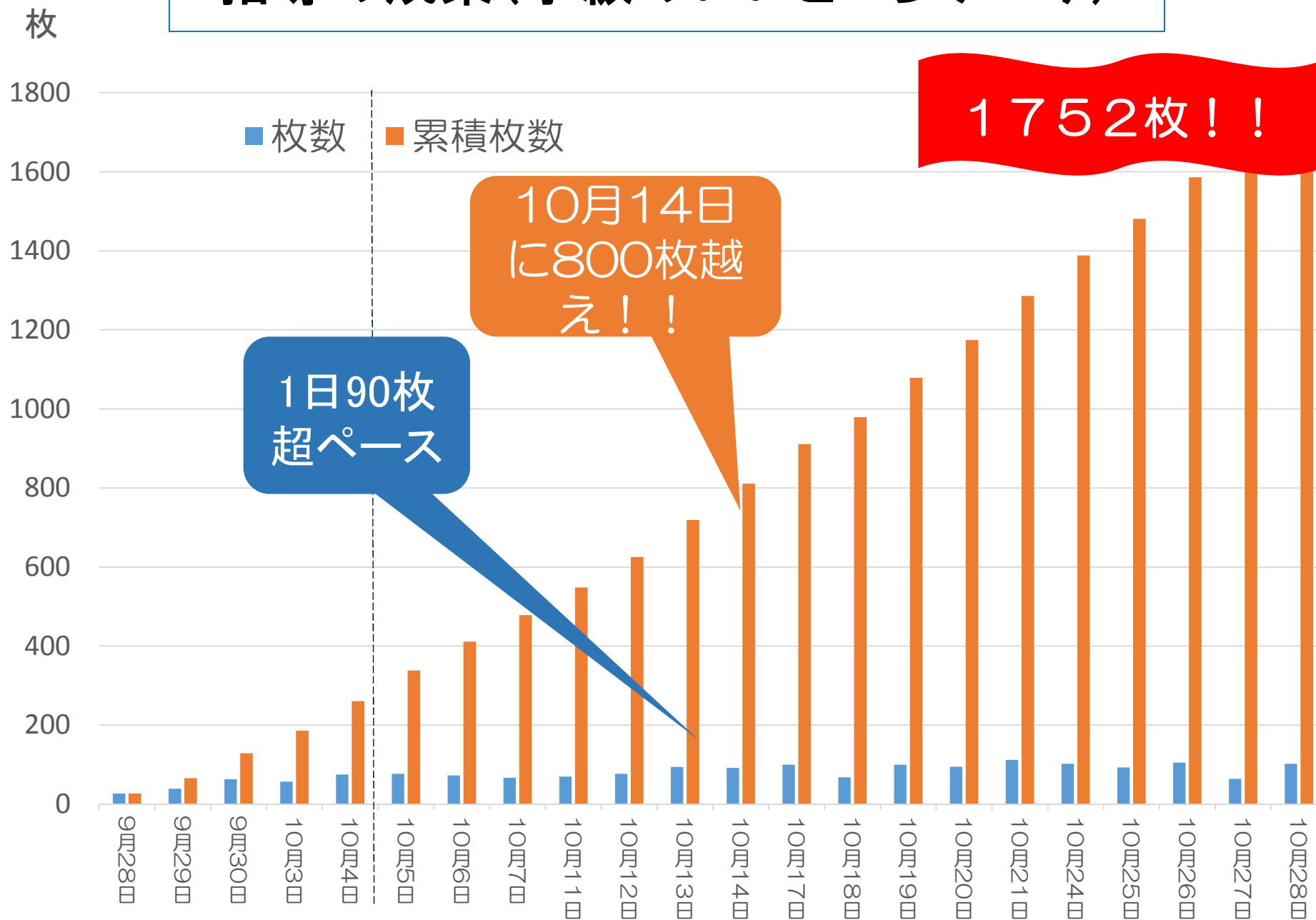
- 担任が内容を深めることを伝えた。

「〇〇さんが、〇〇さんに」「いつ、どんな場面に」
「相手をたくさん」

- 100マスごとシールを貼る台紙を教室後方に掲示
→翌日に児童が自分が書いた枚数分のシールを貼る
100枚ごとにシールのランクアップ(キラキラ等)
- 翌日の朝の会の後、いいところ見つけを書いた枚数分、シールを貼る。シール台紙は100枚ずつ貼れる台紙を用意する、
- 中間目標(400枚)のお楽しみ(特別感)を設定→特別感をもたせる。

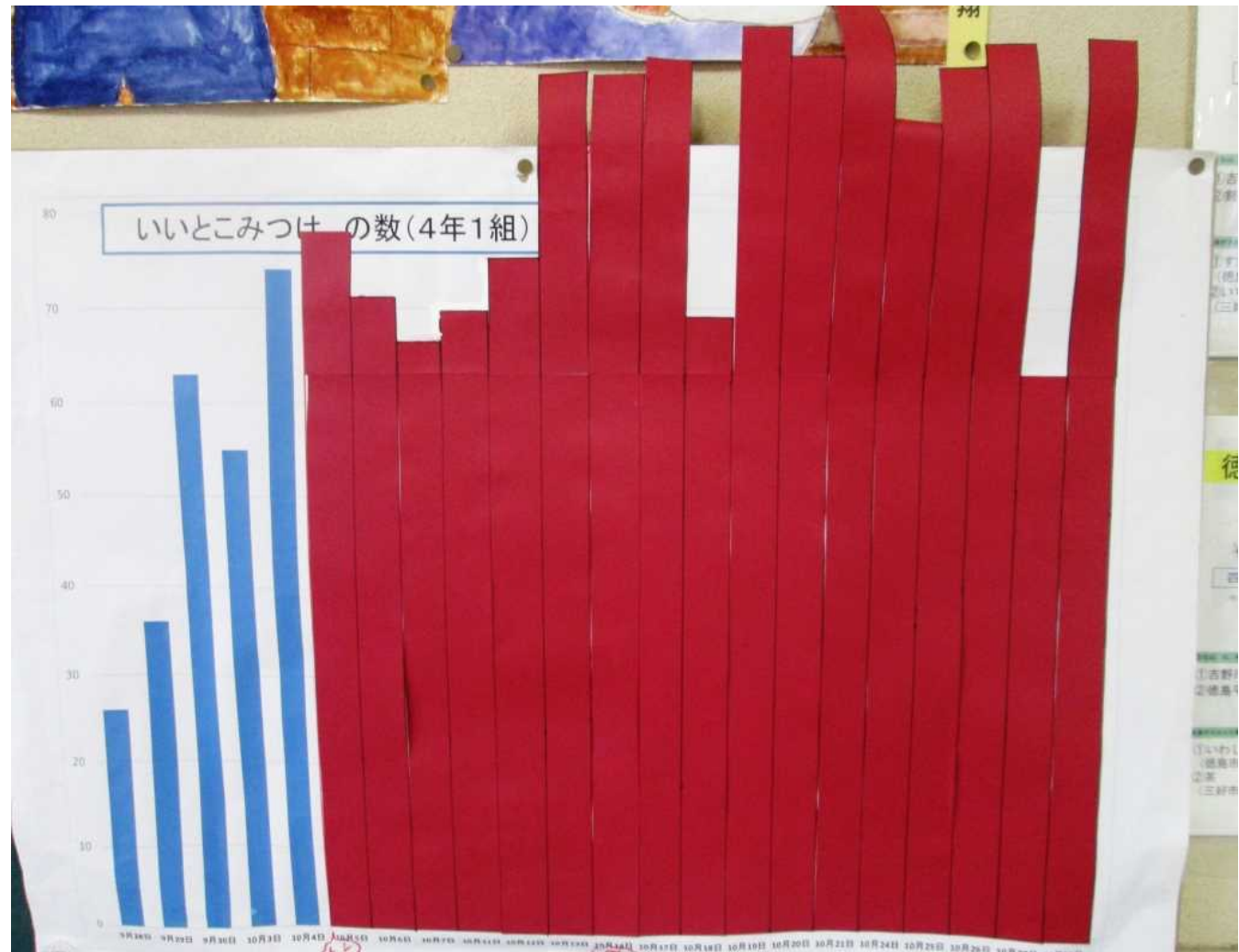
担任の言語賞賛と、コメントあり
→モチベーションUP

指導の成果(学級のいいところみつけ)



教室掲示グラフ

- ゆっくり書いたり、じっくり考えたりする場合、書けないときがあっても良いこと等を伝え、日によって枚数にばらつきがある。
- 児童が、紙からはみ出たグラフを見てさらに意欲が上がっていた。
- 周りの教員からの賞賛も達成感としてよい方向になった。



指導の成果(学級のいいところみつけ)

- はじめは、枚数をたくさん書くことを意識して内容が単調な児童がいた。全体的に担任が内容を深める書き方のパターンを提示した。

(相手の数) / (書いた枚数)が、後半になるとほぼ同じに

- いいことをしている人を見つけることが大切だということを伝えたことで、さりげないところに視点を向けることができてきた
- 「いいところ見つけカード」の容量、見通し、パターンがある程度わかってきた様子。全体的に書く量や内容が深まった
- 授業において、書くスピードが上がってきている児童がおり、この取り組みが1つの影響因として考えられた
- 担任発信ではなく、児童自身が考えて自分のことを終わらせて友だちを手伝ったり協力したりすることができる場面が増えてきた

ここが成功のポイント



○「書こう！」という意欲が高まり、書く内容を深めるためにはある程度の時間が必要だったため、本学級では5分がベストだった。

○全員分のいいところを書いたBEST手紙を、担任等が読み上げてフィードバックしたことで、助け合いや声かけの柔らかかさ等、副次的な変容が見られた。

○同時進行していたスクールワイドPBSによって学級から学校規模へと般化場面が増え、さらに行動の定着が図られた。